

## 団体名・ザリガニと身近な水辺を考える会（小樽市）

**事業名：**ニホンザリガニ保全と外来ザリガニ問題を伝える為の啓蒙活動

**事業概要：**シンポジウムや展示会、調査会や観察会など啓蒙活動を通して、ニホンザリガニ保全や外来種問題等の水辺環境の大切さを伝える。また、ホームページや小冊子配布により、情報発信を行う。

当会の活動は清流のシンボルであるニホンザリガニの保全と、生物多様性を脅かす外来ザリガニ問題についての啓蒙活動です。事務局は小樽にあります。活動は全道で行っています。

絶滅危惧種のニホンザリガニは全道に分布しており、どの地域でも生息地は著しく減っています。しかし、どの程度減っているのかの具体的なデータはなく、知らないうちに生息地が無くなっていたという事例も数多くあります。かつてはあまりにも身近な存在であったニホンザリガニは、気づかないうちに静かに姿を消しつつあるのです。

私たちはニホンザリガニを守るには多くの方々に関心を持ってもらうこと、そしてできれば継続的にモニタリングしてもらうことが大切と考えました。私たちメンバー6人でできることには限界があります。そこで私たちと連携しながら、それぞれの地域でザリガニを見守ってくれる「サテライト」的な存在を全道各地に作っていくことを目指しています。

また、近年問題となっている外来種は洞爺湖での COP10 をきっかけとして注目が高まり、ウチダザリガニやアメリカザリガニについて知る人も増えました。外来種は生物多様性を脅かす存在ではありますが、生き物に罪があるわけではありません。人の手により分布を広げ、旺盛な繁殖力でその地に根差してしまったのです。つまり放した人間の問題であり、これ以上分布を広げないためには何より正しい知識を普及することが大切と考えています。

今回の助成金の大半はこうした私たちの啓蒙活動のための旅費・宿泊費に充てました。お陰さまで枝幸（オホーツクミュージアムえさし、先方の都合により今年度は事業ができませんでした）、札幌（円山動物園、定山溪自然の村）、砂川（こどもの国）、えりも（郷土資料館）、小樽（小樽市博物館）、函館（函館市博物館、北海道教育大学函館校）、釧路（釧路市博物館、釧路工業高校、湖陵高校、NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG）、標津（北の川探検隊、ザリガニ鑑定団）、栗山（ハサンベツの会、来年度に観察会開催で合意）と交流ができ、共催の事業や講師派遣を行いました。

以前から協力体制のあった円山動物園でも、動物園という場を生かし、子どもも大人も一緒に楽しくザリガニとふれあい、興味を深めてもらえたと感じています。円山動物園では「ニホンザリガニプログラム」に取り組んでおり、当会としてもその PR に協力し、飼育のための情報提供をするなど、良好な関係を築いています。

来年度は今年度連携したサテライトとさらに協力体制を深め、継続した事業を展開していきたいと考えています。各地のサテライトからはザリガニの専門家を派遣できる当会へのニーズは高く、参加者は熱心にザリガニ博士の話に耳を傾けてくれます。また、当会としても観察会の進め方やプログラムの構成も回を重ねるにつれてスキルアップしてきたと実感していますし、助成金で制作した標本や冊子はイベントで大活躍しています。

当会はザリガニソン（市民参加のザリガニ調査）に取り組んでいますが、なかなかデータが集積できないのが実情です。サテライト体制をより充実させ、ザリガニソンへの参加を促すことも来年度ではより発展させていきたいと考えています。

# ザリガニ調査・観察会 in 北海道子どもの国

## 2011 8/6 土曜日

時間：10時～15時  
 場所：北海道子どもの国の観賞池および上流水系  
 集合：子どもの国レストハウス(9時30分から受け付け開始)  
 定員：30人(定員になり次第締め切り)  
 参加費：無料  
 持ち物：野外で活動できる服装(長ぐつ、帽子、長そで、長ズボンの着用など)、着替え、タオル、筆記用具、飲み物、昼食(ハイウェイオアシス内の売店やレストランも利用できます)  
 申込・問い合わせ：(財)北海道子どもの国協会公園管理課、電話 0125-53-3319  
 ※小雨決行。大雨の場合は室内プログラム(午前のみ)を行います。



『昨年夏のザリガニ調査・観察会の様子』  
観賞池でアメリカザリガニ釣り、  
上流にあるニホンザリガニの生息地で調査をします

北海道子どもの国の近くにはニホンザリガニとアメリカザリガニがすんでいます。ニホンザリガニは大昔から北海道にいる「在来種」で、豊かな広葉樹の森ときれいな水がなければ生きていけません。最近は数が減ってしまい、絶滅危惧種です。アメリカザリガニは北アメリカがふるさとで、人の手で日本に連れて来られた「外来種」です。とんだん数を増やし、日本本来の生態系のバランスを壊してしまうと心配されています。今回は実際にこの2種類のザリガニについて調査・観察し、ザリガニの生態や外来種の問題についても楽しく学びます。夏休みの自由研究にもぜひ活用してください。

- 参加者にはザリガニについて分かりやすく紹介した小冊子を差し上げます。
- 採集したザリガニを持ち帰ることはできません。

主催：ザリガニと身近な水辺を考える会  
 共催：(財)北海道子どもの国協会  
 後援：後援で北海道子どもの国協賛会  
 本事業は北海道e-ネイチャーネットの助成によります。



